

GO GREEN 緑でいこう

地球ひとつで生きる



共謀罪法案審議での不誠実な答弁をそのまま実演する「コッカイオンドク」。新潟市では超党派の市議団によって開催。写真左は安倍首相役で出演する緑の党共同代表、中山均。



世界一高い供託金問題の当事者として、緑の党も応援している供託金違憲訴訟。6月9日に開かれた第四回公判では、弁護団の予想を上回る好展開に。※裏面に関連記事



木村真豊中市長（緑の党サポーター、写真中央）が原告となり、森友問題を世に知らしめた「国有地売却の公開を求める行政訴訟」。第四回公判は8/17、10:30。終了後デモも予定。

答えは 緑の党 にある！ 極右が台頭する世界情勢と希望としての緑の党



① 30歳のジェシー・クラベル率いるオランダ緑の党はオランダ第二院選挙(3/15)で4議席から14議席へと躍進
② 無所属統一候補としてオーストリア大統領選挙に挑戦、激戦を制したファン・デア・ベレン(オーストリア緑の党元党首)



「不寛容」と「寛容」で揺れる世界
今、世界は揺れています。紛争とそれがもたらした難民危機、その要因のひとつである気候変動、タックス・ヘイブン問題、格差の拡大、環境問題など、多くの政治的課題がグローバル化し、これまでのように国民国家の枠組みでは解決できなくなっています。そして各国で、そんな行き詰った状況に不満や閉塞感を抱く人々を取り込み、排他的ポピュリズムが急速に台頭しています。

アメリカのトランプ大統領はその象徴ともいえる存在です。ヨーロッパでも、フランス国民戦線党首のマリーヌ・ルペン氏、オランダ自由党党首のヘルト・ウィルダース氏、「フイデス」ハンガリー市民同盟を率いるヴィクトル・オルバン首相ら移民排斥を訴える極右の政治家が支持を集め、勢力を拡大しています。

私たちはこの「不寛容」な潮流にどのように立ち向かい、そしてグローバル化する課題にどう取り組みれば良いのでしょうか。その答えは、緑の党にあります。

ポピュリズムの台頭を阻む政治勢力としての緑の党
2017年3月30日から4月2日、EU離脱に揺れるイギリスのリバプールで、第4回グローバル・グリーンズ世界大会が開催され、世界90カ国から2000人が参加しました。持続可能な経済、気候変動、そして民主主義を守り強くするという3つの大きなテーマを柱に、様々な政治的課題を議論し、情報を共有し合い、互いに交流を深めました。1980年頃に誕生した新しい政治勢力である緑の党は、誕生から30年余りで世界中に根をはり、枝葉を広げたのです。今、緑の党は力強い女性やLGBTのリーダーを次々と生み出し、ポピュリズムの台頭を阻む政治勢力として、存在感を高めています。

女性関係が5割を超える内閣、同性婚の大統領候補、ベージン・クインカム導入
基調講演を行ったスウェーデン緑の党の代表で副首相のイザベラ・レヴィン氏は、高らかに「私たちは世界初の、女性が過半数を占めるフェミニスト政府を実現した」と宣言しました。また、フィンランドで同性婚を公表した初の大統領候補であるベッカ・ハーヴィスト氏は、「ベージンクインカムを導入し、新しい経済のかたちを私たちがつくっていく」とスピーチし、満場の拍手を受けました。

オランダ、オーストリアでの勝利が示した希望
大会直前の2017年3月には、オランダで30歳の若き党首ジェシー・クラベル氏が率いる緑の党が4議席から14議席に躍進し、極右政党が第一党になることを阻みました。また、2016年12月に行われたオーストリア大統領選挙では、排外的な極右政党の候補を破り、緑の党の元代表ファン・デア・ベレン氏が大統領に選ばれました。

大会では、オランダやオーストリアからの選挙運動の報告が、熱意を持って迎えられました。特徴的だったのは、オーストリア大統領選挙では、幅広い支持を得るためにあえて保守的な政策を打ち出したこと、オランダ緑の党は詳細な分析に基づいてスライッシュなPR動画を作成し、SNSで発信したことが挙げられます。

どちらも共通していたのは、若者を中心とするボランティアが各地で戸別訪問をはじめとする草の根運動を積極的に関与したこと、地道な運動の大切さを改めて実感しました。「寛容が不寛容に勝った」と評されたこれらの勝利は、私たちにとって大きな希望となりました。

各国に衝撃を与えた原発事故自主避難者のスピーチ
日本からは総勢20名の派遣団が大会に参加しました。最大の成果は、福島からイギリスに避難・移住された園田美都子さんのスピーチを通して、福島原発事故の経験と現状、そして課題を世界に訴えたことにあります。福島原発事故の全容すらつかめないなか政府が原発の再稼働を進めていること、放射線被曝の調査を行っていないこと、そして避難者への支援を打ち切ろうとしていることなど、日本の深刻な状況はほとんど世界に知られていません。園田さんのスピーチは世界各國の参加者に大きな衝撃を与え、私たちが起草した福島原発事故に関する緊急決議案に、20カ国以上の署名が集まりました。

世界でGREENSの決意を形にしたリバプール宣言
大会最終日には、核廃絶や、気候変動対策、そしてあらゆる排斥への反対を含む、13の決議が可決されました。そして、同時に採択されたリバプール宣言では、トランプ大統領ら「悪質で独裁主義的な指導者と右翼政治家が「政治的かつ社会的な変化を求める声」を悪用していると指摘し、「私たちグリーンズはその対極にいます。私たちは恐怖を希望に、憎しみを慈しみに、人種差別主義を全ての人の尊重に替えることを求めます」と、極右に對抗する選択肢として、緑の党を位置付けました。

リバプール宣言(前文)



左から：スウェーデン副首相、環境相、国際開発担当相を歴任するイザベラ・ロビン(スウェーデン緑の党代表) / マル・ガルシア(欧州緑の党事務総長) / 2012年フィンランド大統領選で緑の党から出馬し、決選投票で惜敗したベッカ・ハビスト元環境相 / イギリス下院議員選挙(6/8)で再選を果たしたキャロライン・ルーカス(英国緑の党共同代表)

世界は憂慮すべき危険な傾向にあります。その傾向がもたらす課題に立ち向かうために、多様な主体が団結し始めています。グローバル・グリーンズは、持続的で公正、自由で民主的な変革の担い手として、私たちに共通の価値観を追い求める多くの戦いに参加してきました。世界は私たちが未来世代から借りているに過ぎません。その世界を未来の世代に返すために必要とされる根本的変換を成し遂げるために、私たちはこの先も連携をより強化することを誓います。

環境危機、不平等、武力紛争が増大しつつあり、政治的かつ社会的な変化を求める声が上がっています。悪質で独裁主義的な指導者と右翼政治家が、その不満の声を利用して、彼らは事実上全ての問題について、少数派、反対派、「よそ者」、とりわけ移民と難民申請者に責任を押し付けています。気

候変動あるいは緊縮財政そして社会分裂などの現実の問題に対して、ロシア大統領プーチン、米国大統領トランプ、トルコ大統領エルドアン、フィリピン大統領ドゥテルテなどの指導者たちは、虚構の解決策を示しています。私たちは恐怖を希望に、憎しみを慈しみに、人種差別主義を全ての人の尊重に替えることを求めます。

私たちグリーンズは実践的かつ理想的な政治を提供します。多様性を尊重し、平和を進め、真の民主主義を構築し、不平等に疑問を呈し、とりわけ、自然と将来の世代を尊重する社会を、私たちは信じます。私たちのグローバル・グリーンズ憲章に掲げられるこれらの緑の価値観は、地球上の緑の党に共通しています。緑の党それぞれの多様性を尊重し、共通理念と実践的なアプローチの両方を携えてアクションに活かします。

※宣言全文は党HP参照

確かな希望の光を日本でも灯しに行く
日本ではまだ小さな緑の党ですが、グローバル・グリーンズを通じ、世界では多くの仲間が、同じように原発に反対し、女性やマイノリティーの権利を訴え、気候変動や環境保全に取り組んでいることを実感することができました。GG2017に灯った確かな希望のひかりを、日本にも灯して行きたいと思っています。

緑の党共同代表・長谷川羽衣子



日本からも総勢20名がグローバルグリーンズ大会に参加



エコロジカルな知恵



社会的公正・正義



参加民主主義



非暴力・平和



持続可能性



多様性の尊重

緑の党 グリーンズジャパン
http://greens.jp
地球ひとつで生きる

東京都議選 自民党の歴史的敗北 市民との連携で野党共闘にさらなる広がりを

緑の党の推薦・応援候補 善戦するも届かず



緑の党は東京都議会選挙で、6名の候補を推薦・支持・応援しました。推薦は生活者ネットワークの小松久子さん(杉並区)、岡本京子さん(世田谷区)、きくちやすえさん(練馬区)の3名と、民進党の松下玲子さん(武蔵野市)の計4名です。支持は民進党の斎藤あつしさん(小平市)、応援は無所属で立候補した緑の党副運営委員長(立候補のため休職)の漢人あきこさん(小金井市)です。

しかし、残念ながら5名が次点、1名が3位でした(詳しくは緑の党HP)。安倍首相の加計問題のうえに選挙中の自民党議員の失態が連続したことや「自民党か都民ファーストか」というマスコミ報道もあり、自民党への大逆風が吹き荒れ、最終的には投票率の大幅アップによって大量の自民党批判票が都民ファーストに流れました。この影響を受けて、緑の党の推薦・支持・応援候補は厳しい結果となりました。

第三の選択肢を示した小金井市選挙区での大善戦

小金井市選挙区の結果は、都民ファースト公認候補16,039票、漢人あきこ13,531票、自民党公認候補11,298、共産党推薦候補4,879票。漢人さんは惜しくも2500票差の次点でした。

しかし、無所属の漢人あきこさんは、市民の幅広い支援と多くの市議会議員、ローカルな政治団体の共同した闘いで大善戦、自民党でも都民ファーストでもない第三の選択肢の可能性を示しました。自民党と都民ファースト(公認・推薦)を合計した得票率は、42選挙区のうち7割強の31選挙区が70%以上、10選挙区が60%台でした。しかし小金井市選挙区は、58%と最も低く、唯一の50%台でした。その健闘ぶりが特筆されます。

仮に共産党も含めた野党共闘が実現していれば、都民ファーストの候補者を上回り、1人区で唯一の非自民・非都民ファーストの議席確保ができた可能性が高く、その場合、野党共闘の「小金井モデル」として、全国から大きな注目と希望を集めたはずです。市民的広がりと野党の広範な連携が実現すれば、1人区でも勝てる可能性があることを示した選挙だと言えるでしょう。



自民、都民ファーストの二大政治勢力に「緑・リベラル」の対立軸を

緑の党副運営委員長:井奥雅樹

最もマスコミ報道の影響が大きいのが都議選
1993年の日本新党の躍進以来、都議選は「保守改革」主義者の全国デビューの場として使われてきました。浮動票が多く、組織の締め付けが効かない、ゆえに時代の空気を反映し、地方選挙でもっともマスコミ報道の影響が大きい選挙ともいえます。

今年7月2日都議選で都民ファーストが49議席獲得の躍進、自民党は23議席の惨敗となりました。自民党の大敗の原因は自民党国会議員の暴言・失言・疑惑であったと言われています。しかし、保守系メディアが率先して選挙中に批判報道を繰り返したことも大きいといえます。

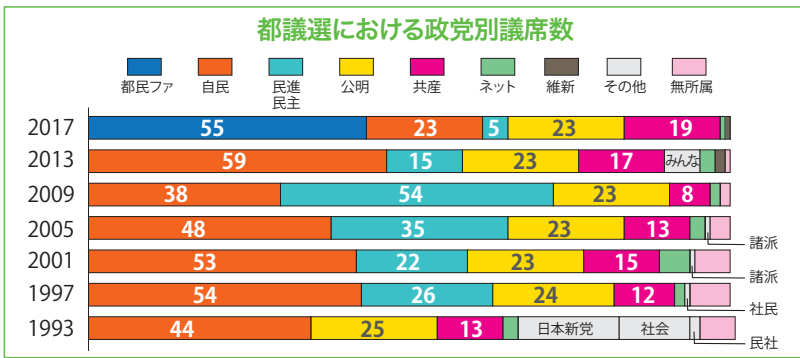
なぜメディアは安心して自民党を叩いたのか
「都民ファースト」は情報公開や古い議会の改革といった注目すべき政策はありませんが、「成長し続ける都市・東京」といったキャッチフレーズに見られるように根本は都市間競争を重視する政策群を持つています。連想するのは先行的に首長が代表となり地域政党を立ち上げた2010年設立の大阪維新の会、減税日本です。特徴として市民の「無駄づかい批判」を原動力に主に社会保障分野での政府の役割を縮小する「緊縮財政」を進める。一方で、市場経済を重視して行政による投資や規制緩和を突き進めてきました。

市場経済を重視し、経済活性化に役立つ

と思うからこそ保守系メディアも「安心」して自民党叩きができたということではないでしょうか。保守系メディアや経済人にもともと「保守」二大政党論が強くあるのです。都議選の結果は国政に広がっていくと思われ、更なる警戒が必要で

「緑・リベラル」勢力で対抗を
都議選でもう一つ注目すべきは民進党の大苦戦でしょう。5議席はかろうじて確保したものの、かつて54議席を獲得していた政党の後継とは思えない惨敗です。1989年に29議席まで獲得した社会党は、二大政党の一翼を民主党に奪われた後、2001年にはゼロ議席になりました。民進党にその姿がダブリます。やみくもな成長よりも福祉や働き方を重視する「リベラル」勢の凋落傾向は確実な状況です。

ちなみに後発で安価で飲みやすい「ジェネリック薬品」をもじって都民ファーストは「ジェネリック自民党」とも呼ばれています。そんな「自民党A vs 自民党B」の二大政党では都民にとってあまりに選択幅が狭いと言えます。また、復古的な要素も気になります。小池氏から代表を引き継いだ野田数氏の過去の言動を見ても、市場経済優先と復古主義を合わせた「保守以上の極右」的な要素もあります。都民の選択肢が「保守 vs 極右」



<国政選挙に大きく関連する都議選の選挙結果>

1993年 日本新党がゼロから20議席を獲得 ▶直後の衆院選でも勝利し、連立政権を樹立
2001年 小泉内閣発足後の自民党が53議席の大勝利 ▶その後の小泉内閣の長期政権へ
2009年 民主党が20議席増54議席の大勝 ▶直後の衆院選で政権交代
2013年 再政権交代後の安倍自民党が59議席の大勝利 ▶その後の安倍内閣の長期政権へ

声明

緑の未来に向けて 恐怖ではなく希望を、分断や差別ではなく包摂と人権の尊重を

安倍強権政治に対する市民の怒りと閉塞感

集団的自衛権行使容認、特定秘密保護法、安保法制や共謀罪など、強権的な政治を続けてきた安倍政権は、国会審議での傲慢な姿勢、「森友・加計学園問題」で次々と浮上する疑惑などで支持率が低下し、先の都議選では歴史的敗北を喫しました。

また、内閣支持率浮上のために取られる場当たり的な経済政策は、一部の企業や業界を潤しても、出口が見えず、特に地方の地域経済、中小企業や非正規労働者の不安定な状況は放置されています。世界が脱原発と自然エネルギー拡大へと転換する中で、福島原発事故の当事者である日本は、原発再稼働と輸出を進めています。

国政も都政も「改憲勢力」が第1党に

安倍首相は在任期間中に改憲を実現することをあきらめず、自民党総裁と首相の座に引き続き意欲を示しています。「都民ファースト」勢力も、国政に進出したとすれば明確な改憲勢力であり、当面、都政でも「改憲」勢力が「第1党」である状況に変化はありません。

世界中で深まる分断や対立に対峙する政治勢力として

一方、日本だけでなく世界でも、生活や経済、社会への市民の不安は、社会保障を受ける貧困層や移民に対する反感、緊張高まる周辺国への反発となって表面化し、市民社会の中に分断や差別、他国の市民との間の対立を生んでいます。私たちの歩む道には、さまざまな困難や課題が待っています。しかし、だからこそ私たちは、3月のグローバルグリーンズ世界大会で世界の仲間たちと確認し合ったように、恐怖ではなく希望を、分断や差別ではなく包摂と人権の尊重を求め続けなければなりません。排外主義が高まる欧州各国で、緑の仲間たちは大きな希望も生み出しています※1面記事。

日本で垣間見た希望

日本でも、先の都議選で私たちの仲間である漢人あきこさんは大善戦を果たしました。多様で幅広い人々によって支えられ、実現すべき社会や政治のあり方、人間と自然とのあるべき関係を訴えたこの選挙は、私たちの望む社会のあり方そのものでもあると言えます。

安倍政治とは違う未来へ

間もなく衆院選が行なわれ、憲法「改正」国民投票も行なわれる可能性があります。そして今から2年も経ずに統一自治体選と参院選を迎えます。他の野党や市民の仲間たちとの連携・協力を一層強めつつ、その中でも私たちは、安倍政権とは違う未来を広く示していかなければなりません。外国との戦争や放射能を心配することなく、豊かな自然や地域の人びとのつながりの中で、質素でも心豊かに暮らし、自由にも言い合い、どんな人も尊重される社会をめざし、私たちは訴え、歩み続けます。

緑の党共同代表:中山均

緑の党 <http://greens.gr.jp>
E-Mail greens@greens.gr.jp

〒166-0002
東京都杉並区高円寺北2-3-4 高円寺ビル601
TEL 03-5364-9010 FAX 03-3223-0080

カンパにご協力を!

城南信用金庫 高円寺支店(店番号036) 普通預金
口座番号:340392 名称:緑の党グリーンズジャパン

郵便口座 ゆうちょ銀行
口座番号:00100-9-262967 名称:緑の党
他金融機関からのお振り込みの場合 当座預金
店名:〇一九(ゼロイチキュウ) 口座番号:262967

自治体選挙結果(都議選をのぞく)

4/9	広島県庄原市議選	松本みのり	新	非会員 応援	残念
4/16	兵庫県宝塚市長選	中川ともこ	現	非会員 支持	当選
	愛媛県伊方町議選	遠藤もと子	新	非会員 支持	残念
	6/4 兵庫県尼崎市議選	酒井はじめ	現	会員 支持	当選
		田中じゅんじ	現	サポーター 支持	残念
		森村さやか	新	会員 支持	残念
		山崎けんいち	新	会員 支持	当選
7/9	長野県下伊那郡高森町議選	中川賢俊	現	会員 推薦	残念

展望が開けてきた供託金違憲訴訟

緑の党グリーンズジャパンは世界一高額な供託金の廃止を求める立場から、供託金廃止キャンペーンを実施、街頭でのアピール行動や、各自治体から「供託金を見直す意見書」を国にあげるアクションを進めています。本訴訟には署名・傍聴・調査活動などで協力しています。去る6月9日に東京地裁大法廷で開かれた第4回公判では原告被告双方に対して裁判長から異例のコメントがあり、十分に主張立証を尽くさせた上で供託金制度の合憲・違憲を判断しようという姿勢がうかがわれました。これはたった一回の審理で合憲の判断を下した平成11年判決とは大きく異なります。国政選挙へ挑戦するために300万円ないし600万円の供託金が必要だったこの制度が廃止されると、日本の民主主義は大きく前進します。ぜひ皆さんも供託金違憲訴訟にご注目ください。

※詳しくは緑の党の特設サイト <https://spue8y99.wixsite.com/justice> をご覧ください。